

(様式4)

公共事業再評価調査書

番 号	下河-2	事業担当局課	下水道河川局河川事業課			
事業名	都市基盤河川改修事業 今井川改修事業			採択年度	昭和62年	
施工場所	横浜新道 ~ 帷子川合流点 (保土ヶ谷区今井町~保土ヶ谷区岩間町)			経過年数	36	
目的及び 事業概要	<p>今井川流域では、新桜ヶ丘団地・東戸塚グリーンタウンなど大規模な宅地開発による都市化が進み、降雨時に流出量が増大するとともに河川へ短時間に雨水が流入するため、治水対策として河川改修工事に着手しています。</p> <p>【目標流量】50m<sup>3</sup>/sec      【治水安全度】50mm/hr      【流域面積】7.6 km<sup>2</sup>          【改修計画延長】4,740m      【流路勾配】1/600~1/200      【浸水想定面積】49 ha</p>					
		当初 (事業採択時)	前回再評価時 (平成30年度)	今回再評価 (令和6年度)		
	事業期間	昭和62年~ 平成22年度	昭和62年~ 平成39年度	昭和62年~ 令和25年度		
	事業費	合計	1,163.7億円	1,163.7億円	1,163.7億円	
		国費	387.9億円	387.9億円	387.9億円	
		県費	387.9億円	387.9億円	387.9億円	
		市費	387.9億円	387.9億円	387.9億円	
	変更内容	<p>元町橋および保土ヶ谷橋の架替工事において、地元住民や関係機関との協議が長期化しており、合意形成に時間を要しています。そのため、事業期間を令和25年度まで延長することとなりました。今後、護岸改修を進めながら、未買収用地の取得及び上流のJR横断部の協議を並行して進めることで事業進捗を図ります。</p>				
上位計画等	<p>「中期4か年計画」では、基本戦略「都市の持続可能性」に関する政策の一つである「風水害に強い都市づくり」の中で、激甚化する風水害への対策として、流域治水の推進や河川改修などを総合的に進めることとしております。</p>					
関連事業	<p>一般国道1号(保土ヶ谷橋工区)、東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備計画(案)</p>					
事業スケジュール	<p>【凡例】 <span style="color: black;">→</span> 前回工程 <span style="color: red;">→</span> 今回工程</p>					

総事業費		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額（税込）</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">用地取得費</td> <td rowspan="2">約162.6億円</td> <td>用地購入費：約104.9億円</td> </tr> <tr> <td>物件補償：約57.7億円</td> </tr> <tr> <td>補償費</td> <td>約17.3億円</td> <td>補償費：約17.3億円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">工事費</td> <td rowspan="2">約962億円</td> <td>本工事費：約802.2億円</td> </tr> <tr> <td>附帯工事費：約159.9億円</td> </tr> <tr> <td>設計・調査費</td> <td>約21.8億円</td> <td>測量設計費：約21.8億円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>約1163.7億円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額（税込）	内訳	用地取得費	約162.6億円	用地購入費：約104.9億円	物件補償：約57.7億円	補償費	約17.3億円	補償費：約17.3億円	工事費	約962億円	本工事費：約802.2億円	附帯工事費：約159.9億円	設計・調査費	約21.8億円	測量設計費：約21.8億円	計	約1163.7億円				
		項目	金額（税込）	内訳																					
		用地取得費	約162.6億円	用地購入費：約104.9億円																					
				物件補償：約57.7億円																					
		補償費	約17.3億円	補償費：約17.3億円																					
		工事費	約962億円	本工事費：約802.2億円																					
				附帯工事費：約159.9億円																					
設計・調査費	約21.8億円	測量設計費：約21.8億円																							
計	約1163.7億円																								
※現在価値化を行う前の数字となります。B/C の算出の際には、現在価値化をし、感度分析により物価上昇等を考慮した計算を行っております。																									
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>近年では、気候変動に伴い激甚化・頻発化する風水害に対し、洪水や内水氾濫、土砂災害等の被害をできる限り防ぎ、人命と社会経済活動を守る安全な都市をつくるため、流域全体のあらゆる関係者が一体となって取り組む「流域治水」に向けた取組が進んでいます。</p> <p>今井川流域では、市街化が進み、斜面地まで住宅が建設されたため、雨水が短時間で河川へ流入するようになり、頻発する局地的大雨に備えた浸水対策が必要となっています。中流部の地下調節池は、商業施設や人口が集中する保土ヶ谷駅及び天王町駅周辺の浸水被害軽減に役割を果たしていますが、上流部の治水安全度を高めるため、早期に事業進捗を図る必要があります。</p>																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業全体</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割引率</td> <td colspan="2">4%（2%）</td> </tr> <tr> <td>総便益(B)（百万円）</td> <td>544,866（593,594）</td> <td>210,628（349,065）</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)（百万円）</td> <td>339,801（231,090）</td> <td>31,128（43,574）</td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>1.60（2.57）</td> <td>6.77（8.01）</td> </tr> <tr> <td>感度分析〔事業費+10%〕</td> <td>1.57（2.52）</td> <td>6.34（7.56）</td> </tr> <tr> <td>感度分析〔工期-10%〕</td> <td>1.60（2.55）</td> <td>6.64（7.91）</td> </tr> <tr> <td>感度分析〔資産-10%〕</td> <td>1.47（2.35）</td> <td>6.19（7.34）</td> </tr> </tbody> </table>		事業全体	残事業	割引率	4%（2%）		総便益(B)（百万円）	544,866（593,594）	210,628（349,065）	総費用(C)（百万円）	339,801（231,090）	31,128（43,574）	費用便益比(B/C)	1.60（2.57）	6.77（8.01）	感度分析〔事業費+10%〕	1.57（2.52）	6.34（7.56）	感度分析〔工期-10%〕	1.60（2.55）	6.64（7.91）	感度分析〔資産-10%〕	1.47（2.35）
		事業全体	残事業																						
	割引率	4%（2%）																							
	総便益(B)（百万円）	544,866（593,594）	210,628（349,065）																						
	総費用(C)（百万円）	339,801（231,090）	31,128（43,574）																						
	費用便益比(B/C)	1.60（2.57）	6.77（8.01）																						
	感度分析〔事業費+10%〕	1.57（2.52）	6.34（7.56）																						
	感度分析〔工期-10%〕	1.60（2.55）	6.64（7.91）																						
	感度分析〔資産-10%〕	1.47（2.35）	6.19（7.34）																						
事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)	〔その他特記事項〕感度分析：事業費、工期、資産において、想定外の10%の増減が発生した場合の事業の経済的影響を分析																								

事業の進捗状況	事業進捗率%	平成 30 年度の再評価(平成 29 年度末)より、令和 5 年度末までに元町橋上流、保土ヶ谷橋下流区域の護岸改修を推進し、事業が 4.8%進捗しました。用地は 2,902 m <sup>2</sup> を取得し、5.7%の進捗となっています。未買収用地は約 9,500 m <sup>2</sup> 残存しており、優先順位をつけて取得交渉を進めています。 また、改修済みの護岸延長は、計画延長に対して 73.6%の進捗となっています。
	76.7%	
	用地取得率%	
	81.6%	
	供用等の状況	
工事完了区間活用		
事業の課題及び進捗見込み	<p>平成 15 年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。</p> <p>国道 1 号保土ヶ谷橋においては、現在未買収用地の取得及び施工計画について協議中です。元町橋においては、現在協議等が完了しており、工事を進めています。</p> <p>進捗見込みについては、引き続き、護岸改修を進めながら用地取得及び協議を並行して進め、令和 25 年度の事業完了に向けて進めていきます。</p> <p>事業期間は延伸されたが、河川事業の進捗やグリーンインフラ等、流域の下水道事業の進捗により、浸水に対するリスクは低減されている。</p>	
その他 (コスト削減項目等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への配慮：工事による周辺の皆様への影響を可能な限り低減いたします。</li> </ul> <p>市街地での工事を含むため、作業基地への資材の搬出入などに伴う工事車両の通行については、交通誘導員を適切に配置し、作業基地周辺の安全性の確保及び周辺道路の交雑緩和に努めます。</p> <p>工事中の低公害型建設機械の使用や建設副産物のリサイクルを行うとともに、横浜市環境配慮指針に基づいて今後の設計・施工段階において積極的に環境に配慮して取り組みます。</p> <p>また、今井川沿いの河川環境配慮の一環として整備された歴史的な松並木プロムナードがあり、河道沿いの広場整備や生態系に配慮した魚道の整備を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業で、新しく河道を整備した区間を暫定的に洪水を貯留できる施設としての利用を検討していきます。</li> </ul>	
その他	—	
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内図</li> <li>・概要平面図</li> <li>・前回再評価内容との比較</li> <li>・今井川 都市基盤河川改修事業の概要</li> <li>・事業費推移・進捗グラフ</li> <li>・現況写真</li> </ul>	
対応方針	継続	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2

		【見直し内容】
	中 止	

対応方針 とした理由	元町橋および保土ヶ谷橋の架替工事における地元住民や関係機関との協議の長期化や用地取得が難航していることにより事業期間の延長が必要となりましたが、費用便益分析の結果より本事業に対する効果は十分に得られることが確認できたことから、今後も本事業を継続する必要があると考えられます。
---------------	---

※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。



概要平面図



前回再評価内容との比較 今井川 都市基盤河川改修事業

	前回（平成30年度）	今回（令和5年度）	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	今井川流域では、市街化が進み、斜面地まで住宅が建設されたため、雨水が短時間に河川へ流入するようになりました。近年では、各地で頻発する局地的大雨に備えた浸水対策が必要となっています。中流部の地下調節池は、商業施設や人口が集中する保土ヶ谷駅及び天王町駅周辺の浸水被害軽減に役割を果たしていますが、上流部の治水安全度を高めるため、早期に事業進捗を図る必要があります。	今井川流域では、市街化が進み、斜面地まで住宅が建設されたため、雨水が短時間に河川へ流入するようになりました。近年では、計画規模を越える大雨が各地で頻発しており、浸水対策が必要となっています。中流部の地下調節池は、商業施設や人口が集中する保土ヶ谷駅及び天王町駅周辺の浸水被害軽減に役割を果たしており、JR橋梁付近の護岸改修も進めています。上流部の治水安全度を高めるため、早期に事業進捗を図る必要があります。	・局地的大雨の頻発
事業進捗率	71.9%	76.7%	+ 4.8%
用地取得率	75.9%	81.6%	+ 5.7%
供用等の状況	工事完了区間活用	工事完了区間活用	—
事業の進捗見込	平成15年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。 引き続き、護岸改修を進めながら、未買収用地の取得及び国道1号保土ヶ谷橋や元町橋の協議を並行して進め、平成39年度の事業完了を目指します。	平成15年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。 引き続き、護岸改修を進めながら、未買収用地の取得及び国道1号保土ヶ谷橋や元町橋の改修を並行して進め、令和25年度の事業完了を目指します。	前回再評価（H30）から、護岸改修、用地取得ともに着実に進捗が図られております。
前回委員会での主な意見等	特になし		

## 今井川 都市基盤河川改修事業の概要

### (1) 事業内容

#### 流域の概要

二級河川帷子川水系今井川は、横浜市保土ヶ谷区今井町の横浜カントリークラブに源を発し、北東に流れ、保土ヶ谷区岩間町で帷子川と合流する二級河川です。  
流域面積7.6km<sup>2</sup>、延長7.0km、改修計画区間は上流の横浜新道から帷子川合流点までの4,740mです。

#### 計画諸元

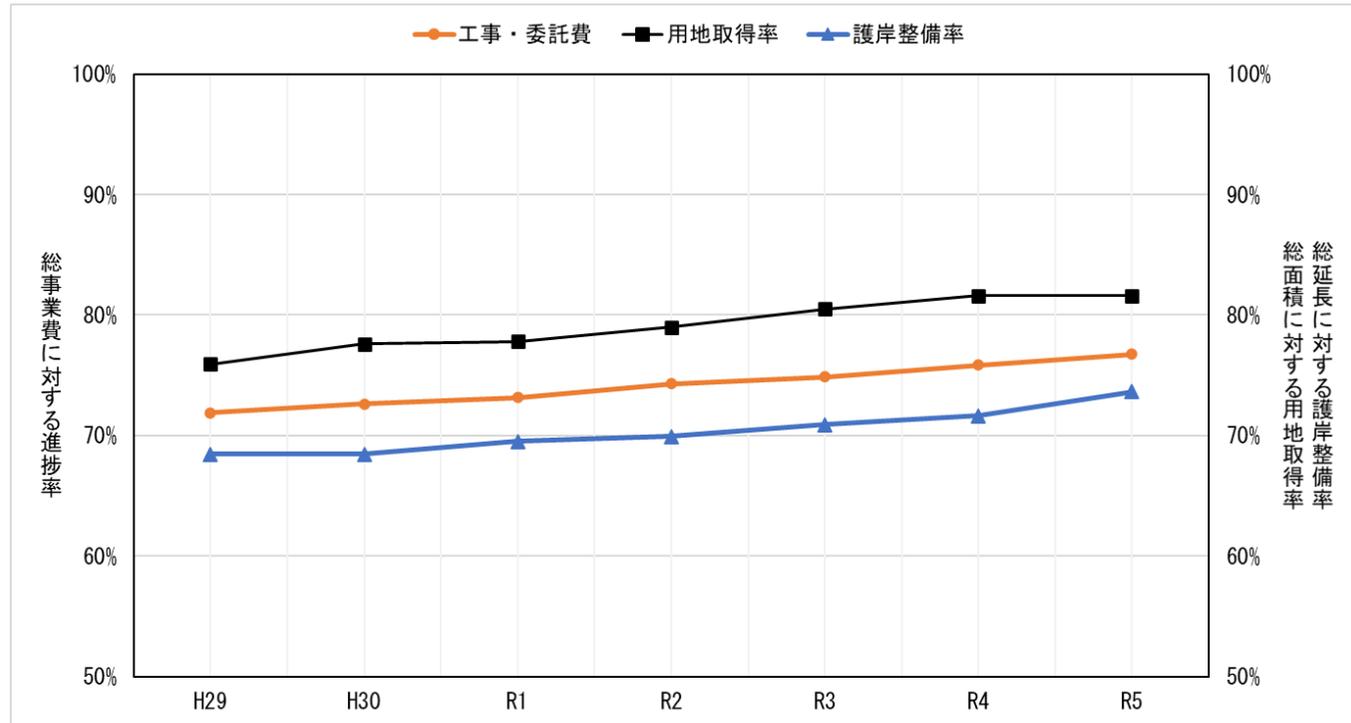
降雨確率	1/6.3年
計画時間降雨	50mm/h r
計画高水流量	50m <sup>3</sup> /sec
河道幅	10.5~5.9m
水深	3.3~2.4m
流路勾配	1/600~1/200

### (2) 事業費

	事業費	備考
総事業費	1,163.7億円	
内訳 用地・補償費	179.9億円	
工事費	983.8億円	
令和5年度末の執行済事業費	892.9億円	
内訳 用地・補償費	139.7億円	
工事費	753.2億円	
今後の残事業費(予定)	270.8億円	
内訳 用地・補償費	40.2億円	
工事費	230.6億円	

(3) 事業費推移・進捗グラフ

年度	事業費（百万円）					用地取得（m <sup>2</sup> ）			護岸整備（m）			備考
	工事・委託費	用地・補償費	年度計	累計	進捗率	年度計	累計	進捗率	年度計	累計	進捗率	
～H27	69,543.7	12,133.4	81,677.1	81,677.1	70.2%	34,706	34,706	67.5%	6,201	6,201	65.4%	
H28	780.5	192.0	972.4	82,649.5	71.0%	2,954	37,660	73.3%	104	6,305	66.5%	
H29	633.2	369.3	1,002.6	83,652.1	71.9%	1,362	39,022	75.9%	186	6,491	68.5%	前回
H30	582.6	259.5	842.0	84,494.1	72.6%	855	39,877	77.6%	0	6,491	68.5%	
R1	375.0	255.3	630.3	85,124.4	73.1%	133	40,010	77.8%	98	6,589	69.5%	
R2	1,042.5	302.8	1,345.3	86,469.7	74.3%	581	40,591	79.0%	41	6,629	69.9%	
R3	389.9	272.3	662.2	87,131.8	74.9%	800	41,391	80.5%	91	6,721	70.9%	
R4	973.9	137.7	1,111.6	88,243.4	75.8%	531	41,922	81.6%	73	6,793	71.7%	
R5	994.1	52.2	1,046.2	89,289.7	76.7%	2	41,924	81.6%	188	6,981	73.6%	今回
計	75,315.3	13,974.4	89,289.7			41,924			6,981			
総事業費	98,380.0	17,990.0	116,370.0			51,400			9,480			



現況写真

改修完了区間



整備中、未整備区間

